

は し が き

「ゆとりある、しかも充実した学校教育」を目指した新教育課程の実施を目前に控え、現在各学校では全面実施への円滑な移行を図るため研究に余念のないことと思います。

英語という一教科に狭くしぼっていても、週単位授業時数4時間から3時間への切り変えのなかで、言語材料中心の学習から実際に使える喜びの機会を与える言語活動の工夫、基礎的・基本的事項の精選に基づく反復学習のあり方、指導内容の発展系列を加味した指導計画作成等、英語教師に課せられた問題が多く横たわっています。

ところで、生徒一人ひとりが英語に興味と関心をもって生き生きととりくむ授業とは、いかなる場合を言うのでしょうか。生徒の心を満足させる授業を成立させる要素にはいろいろありますが、なかでも、教師が事前に十分教材研究をし、自信をもって授業に臨んだ時を言うのではないのでしょうか。

このためにこそ、教師は、個々の生徒を頭におきながら深い教材研究に日夜努力しているのだと思います。恐らく、主たる教材である教科書を固定的な体系の範囲で考えず、生徒の実態、教材の本質に即し、かつ教師の教材観をにじませて、いかに生徒の学力充実を図るかという点に配慮していると思います。

この研究報告も、この共通認識の上に立って教科書分析を進めてきましたので、もしも、先生方の教材研究の一助となるならば至上の幸いです。英語学習内容における3領域4技能のうち「読むこと」に焦点をしぼり、その視点からの教科書分析に基づき、構文、内容把握、語い、文化背景等の問題を取り上げました。

なお、「読み」の分野のうち音声面に関しては紙数の都合上ほとんど触れることができませんでした。この報告書をお読みになられる先生方の御鞭撻をえて、その方の研究も今後一層深まることを期待します。

最後に、まだ研究の進め方や内容に不備の点があると思いますので、率直な御批判、御指導をたまわれれば幸いです。

昭和54年3月

新潟県立教育センター所長

風 巻 友 重